

実施概要報告

開催目的・概要

日本でタイムライン防災の取り組みが開始されてから6年が経過し、各地に取り組みが広がってきています。検討を通じた地域の防災関係機関との情報交換や連携強化は防災対応の効率化・迅速化に効果を挙げている一方、災害対応時のタイムラインの有効活用に対する課題も生じてきており、より効果的なタイムライン運用についての検討・改善が求められています。

水防災タイムライン・カンファレンスは、タイムライン防災の普及・発展を目指して、行政担当者、関係機関などの情報共有を図るべく2016年度から毎年開催しており、2019年度は北海道で第4回の全国大会を開催することとなりました。都道府県のうち最も多くの地域でタイムライン防災の取り組みが行われている北海道で、全国の多種多様なタイムライン取り組み事例や課題を共有し、市町村長や実務担当者で課題解決に向けた議論を行うことを目的に、2日間の日程でさまざまなプログラムを実施しました。すでにタイムライン防災も取り組みを実施している地域はもとより、タイムライン防災に関心のある市町村・関係機関・民間団体の方も多数参加し、活発な意見交換が行われました。

日時・場所

2019年11月5日(火) 滝川市 ホテルスエヒロ

13:00～14:20 コミュニティ・タイムラインワークショップ

14:30～17:00 北海道水防災タイムラインサミット

2019年11月6日(水) 札幌市教育文化会館

10:30～12:00 実務者タイムライン運用ワークショップ

13:00～13:50 ポスターセッション・コアタイム

14:00～17:00 公開シンポジウム



ホテルスエヒロ



札幌市教育文化会館

実施体制

主催：水防災タイムライン・カンファレンス全国大会2019 in北海道 実行委員会

委員長：前田康吉(滝川市長)／副委員長：川上満(平取町長)／監事：池部彰(南富良野町長)
委員：宮坂尚市朗(厚真町長)、外崎秀人(今金町長)、辻直孝(北見市長)、佐藤吉彦(標茶町長)、石塚隆(新篠津村長)、高橋貞光(せたな町長)、上坂隆一(月形町長)、大鷹千秋(日高町長)、板東知文(美唄市長)、竹中喜之(むかわ町長)

後援：国土交通省、札幌管区气象台、北海道

協賛：一般財団法人北海道河川財団、一般財団法人石狩川振興財団

協力：特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構

参加者数

11/5 コミュニティ・タイムラインワークショップ	275名
11/5 北海道水防災タイムラインサミット	311名
11/6 実務者タイムライン運用ワークショップ	148名
11/6 公開シンポジウム	354名

※ 事務局等の運営スタッフ数を除く



北海道水防災タイムラインサミット会場



公開シンポジウム会場

1日目 滝川会場：2019年11月5日(火)

コミュニティ・タイムラインワークショップ（13:00-14:20 / 1階エレガンスホール）

コミュニティ・タイムライン（以下、「CTL」と表記）の運用に取り組んでいる地域の代表者とその策定を支援した地元行政の方をお招きして、策定したCTLの特徴や導入に対する思い、支援者がどのようにして地域に働きかけたのかといった点について事例発表をして頂きました。また、3団体の事例発表後には、参加者との間で質疑応答や意見交換が行われました。



■ コーディネーター

特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構
関西本部長代理 小河保之氏

■ 発表者

滝川市幸町第4区地区防災会

会長 小林重信氏 / 事務局 下道敏之氏

支援者：滝川市総務部防災危機対策室 倉嶋真司氏

今金町種川連合自治会

会長 吉田諭氏 / 会計 佐々木崇夫氏

支援者：今金町まちづくり推進課 高橋秀実氏

貝塚市二色の浜旭住宅地区

世話人 岡本康敬氏 / 世話人 清水勤氏

支援者：貝塚市都市政策部危機管理課 岡本昌二氏

質疑応答では、CTLを始めるきっかけや運営の財源について、また町内会の高齢化が進んでいる中、若い人に訓練に参加してもらう方策等について、活発な意見交換がなされました。最後に小河コーディネーターから「普段から役所や関係機関との顔の見える関係を築いていくことにより、スムーズな連携や情報のやり取りが可能となり、地域防災の向上につながる」との総括コメントを頂きました。

北海道水防災タイムラインサミット（14:30-17:00 / 2階丹頂・白鶴）

北海道内でタイムライン防災に取り組む13市町村のタイムライン（以下、「TL」と表記）の特色をそれぞれから発表いただき、13市町村長が水防災に対してトップとして為すべきことについて、4つのテーマに基づいて円卓会議が行われました。



■ コーディネーター

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
客員教授 松尾一郎氏

■ 構成員

前田康吉 滝川市長、川上満 平取町長、池部彰 南富良野町長、近藤泰行 厚真町副町長、外崎秀人 今金町長、辻直孝 北見市長、佐藤吉彦 標茶町長、石塚隆 新篠津村長、高橋貞光 せたな町長、上坂隆一 月形町長、大鷹千秋 日高町長、板東知文 美唄市長、渋谷昌彦 むかわ町副町長

■ コメンテーター

北海道開発局建設部河川管理課 井田泰蔵氏
気象庁札幌管区气象台気象防災部 森谷貞幸氏
北海道総務部危機対策局危機対策課 高見里佳氏
北海道建設部建設政策局維持管理防災課 石黒元昭氏
北海道空知総合振興局札幌建設管理部 千葉正彦氏
北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部 奥野良聡氏

1つ目のテーマである『避難勧告等の決断・伝達』では、議論の最後に「様々なツールを使って住民一人ひとりの安全を守ること、そのために決断する側が適切な危機感を持ち、それを共有して正しく行動することが重要。」と松尾コーディネーターから総括がありました。2つ目の『地域及び住民の防災意識向上』については、「気象・水文情報に関する注意喚起の徹底」「避難所体験等を通じた防災教育の強化」「CTLによる共助力の強化および防災リーダーの育成の強化」等が重要項目として挙げられました。3つ目の『関係機関との連携強化』では、「TLの円滑な運用のため地域との連携は不可欠」「TLを通して関係機関はもとより、役所・役場内部署間の連携も強化される」といったTL運用を通じた各方面との連携強化の可能性について意見交換が行われました。4つ目の『TL防災の継続的取り組み』については、「今後北海道内で、同じ流域内の協力体制を強化していくため、『タイムライン防災・北海道ネットワーク』を設立し、より多くの市町村と共にTL防災に取り組むことを目指す」ことが合意されました。

2日目 札幌会場：2019年11月6日(水)

実務者タイムライン運用ワークショップ（10:30-12:00／403研修室・リハーサル室A）

TL運用の中で浮かび上がった課題やその解決策を3つのテーマに分け、各テーマの有効な対策事例をもつ地域からの事例紹介と、その内容に対する質疑応答が行われました。

■ アドバイザー

特定非営利活動法人環境防災研究機構北海道
代表理事 黒木幹男氏
一般社団法人日本気象予報士会北海道支部
副支部長 志田昌之氏

■ 事例提供者

- ① 地域住民へのタイムライン防災の理解浸透について〔大豊町総務課庶務班 永野尊教氏〕
- ② タイムラインの効率的な運用方法について〔紀宝町総務課防災対策室 松尾竜哉氏〕
- ③ 関係機関との効果的な情報共有の方法について〔北見市常呂総合支所総務課 川村淳氏／徳永秀康氏〕

テーマ①「地域住民へのTL防災の理解浸透について」では、高知県大豊町で作成した機関連携TLとCTLの整合を図り、TLを連携ツールとしていざという時に地域全体が防災モードに移行できる体制を目指していることが紹介されました。

テーマ②「TLの効率的な運用方法について」では、三重県紀宝町で導入された情報共有システムが、TL運用を通じて、情報集約・機関共有・住民周知等で多岐に渡る防災業務の大幅軽減が実現していることが紹介されました。

テーマ③「関係機関との効果的な情報共有の方法について」では、北海道北見市における気象台や河川管理者との連携・情報共有の方法として、TV会議やメーリングリストを有効に活用し、市の意思決定に有効に役立てている事例が紹介されました。



ポスターセッション・コアタイム（13:00-13:50／ギャラリー）

タイムライン防災に取り組む全国の地域や防災関係機関の水防災・タイムライン防災に関わる活動、各地域のタイムラインの特徴などをまとめたポスターを掲出し、来場者に自由に閲覧して頂くとともに、コアタイムでは各ポスターの掲出団体の担当者がポスター前に立ち、来場者からの質問に答えたり、タイムライン防災に関して活発な意見交換が行われました。

《出展団体(全22団体)》

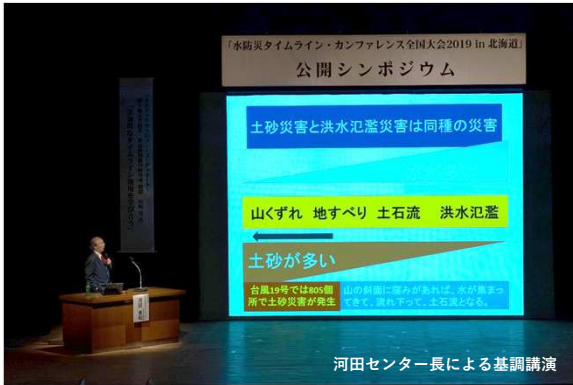
北海道 滝川市／北海道 平取町／北海道 厚真町／北海道 今金町／北海道 北見市／北海道 標茶町／北海道 新篠津村／北海道 せたな町／北海道 月形町／北海道 日高町／北海道 美唄市／北海道 標津町・北海道建設部／北海道 むかわ町／北海道開発局建設部河川管理課／特定非営利活動法人環境防災研究機構気象防災支援・研究センター／気象庁札幌管区気象台気象防災部／大阪府都市整備部河川室／大阪府 河南町／岐阜県 多治見市／愛知県 名古屋市／三重県 紀宝町

コアタイムには、午前中のワークショップで事例発表した団体からより詳しい説明を聞いたり、タイムラインの対象とする河川や地域の災害特性、各地域の意思決定(TLステージ等)の考え方などについて質疑応答が行われました。着席して講話を聴くプログラムが多い中で、目的が共通する全国各地の防災担当者同士が気軽に話をできる場として良い交流の時間ともなりました。



公開シンポジウム（14:00-17:00／小ホール）

カンファレンスのクライマックスとして、一般公開型のシンポジウムが行われました。有識者による基調講演に続き、前日に行われた北海道水防災タイムラインサミットのサミット宣言、全国でタイムライン防災に取り組む市町村長と防災関係機関幹部によるパネルディスカッションなどで水防災への知識と認識を深めることができました。



河田センター長による基調講演



サミット宣言後の記念撮影



パネルディスカッション

- **主催者挨拶** 実行委員長 前田康吉 滝川市長
- **来賓代表挨拶** 国土交通省北海道局長 水島徹治氏
北海道総務部危機対策局長 辻井宏文氏
- **基調講演** 「地球温暖化に起因する風水害の激化～タイムラインで縮災を実現する～」
関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授
河田恵昭氏
- **サミット宣言**
松尾一郎コーディネーター／前田康吉 滝川市長／川上満 平取町長／池部彰 南富良野町長／宮坂尚市朗 厚真町長／外崎秀人 今金町長／辻直孝 北見市長／佐藤吉彦 標茶町長／石塚隆 新篠津村長／高橋貞光 せたな町長／上坂隆一月形町長／深根英範 日高町副町長／板東知文 美唄市長／渋谷昌彦 むかわ町副町長
- **パネルディスカッション** 「実効的なタイムライン運用を学び合う」
《コーディネーター》山崎登氏（国土舘大学防災・救急救助総合研究所教授）
《パネリスト》西田健 紀宝町長／岩崎憲郎 大豊町長／古川雅典 多治見市長／藤原龍男 貝塚市長／前田康吉 滝川市長／川上満 平取町長／高村裕平課長(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)／石田純一 部長(気象庁札幌管区気象台気象防災部)／辻井宏文 局長(北海道総務部危機対策局)
《会場コメンテーター》武田勝玄 河南町長／池部彰 南富良野町長／宮坂尚市朗 厚真町長／外崎秀人 今金町長／辻直孝 北見市長／石塚隆 新篠津村長／高橋貞光 せたな町長／上坂隆一月形町長／深根英範 日高町副町長／板東知文 美唄市長／渋谷昌彦 むかわ町副町長
- **閉会挨拶** 副実行委員長 川上満 平取町長

河田恵昭センター長による基調講演では、日本の防災の変遷や本年の台風19号豪雨災害を振り返った上で、「災害文明のみならず災害文化を育成するパラダイムシフト」の重要性を説かれました。

サミット宣言では、水防災に関してトップとして為すべきことを4項目に整理し、松尾コーディネーターの総括に続いて、前田康吉滝川市長が宣言文を読み上げました。

シンポジウム後半のパネルディスカッションでは、山崎登コーディネーターの進行で、台風19号や昨年の北海道胆振東部地震について各パネリストから感想をいただき、「タイムライン防災・北海道ネットワーク」への期待、タイムラインの地域住民への展開の有効性などについての議論が行われました。最後に、次回の全国大会開催地として、岐阜県多治見市で調整することが報告され、閉会となりました。

発行：2019年11月18日

編集：水防災タイムライン・カンファレンス全国大会2019 in北海道《実行委員会事務局》

北海道滝川市総務部総務課防災危機対策室 TEL 0125-28-8003

特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構北海道支部 TEL 011-271-2663